



「狂言」を知ろう! 笑いの世界に 飛び込んでみよう!

外国语学部 中国語学科 3年 阿部 恵子

ワークショップ後、三宅藤九郎さんを囲んで記念撮影。後方の老松の絵は中国語学科3年牛島さんの作品。



大学までは緑豊かな街路樹が続く



豊洲駅周辺は近代的ビルの群れ

600年の歴史を守る和泉流女性狂言師十世三宅藤九郎さんの講演を拝聴しに、7月に孫教授、中国語学科3年福田諒、阿部恵子は、芝浦工業大学をたずねた。

東京メトロ有楽町線豊洲駅1C出口を上がるところ、ガラス張りのオフィスビルやカフェが建ち並ぶ。



芝浦工業大学 正門

さすがウォーターフロント!開放的な風景が一気に広がる。川面から爽やかな風が吹いてくる。階段を降りると川縁の遊歩道。お散歩中の家族連れやワンちゃんを連れた人がのんびり歩いている。授業の合間に息抜きに川縁をお散歩できるなんて素敵です。

駅から芝浦工業大学までは約5分。通りは街路樹の緑が眩しい。2年後、神大もみなとみらいに移転する。豊洲もみなとみらいも埋立地、神大新キャンパス周辺も、こんな感じの景色が広がるのかなど、想像してみた。突然広がるキャンパス。正面の学舎の向こうの景色が気になる。学食に行く前にお散歩がてら探索。

工業大学ならではの近代的でアーティスティックな校舎の中、ガラス張りの教室の中では付属高校の生徒さんが大学生と勉強中。外国人留学生の交流センターが各階にあるのが印象に残った。

今回の芝浦工業大学訪問の最大の目的は、600年の歴史を持つ和泉流狂言の三宅藤九郎さんの講演を英語で拝聴するというものでした。

世界26都市で英語で狂言ワークショップや公演



リバーサイドのプロムナードも
キャンパスの一部のよう



校舎の真ん中から川風が吹き抜ける

をされる三宅藤九郎さんは15歳の若さで人間国宝故・九世三宅藤九郎のお祖父様から指名を受けられ名跡を継承され、17歳で十世三宅藤九郎襲名披露公演を国立能楽堂でなされ、日本が誇る伝統芸能狂言の第一人者です。

羽織袴で教壇に立たれた三宅藤九郎さんは、小柄で華奢な、たおやかな女性です。柔らかな笑みで滑らかなクイーンズイングリッシュの自己紹介から始まり、講演を聴きに来ている人の半分以上は外国人でしたが、皆さん食い入るように藤九郎さんのお話を聴き入っていました。

講演は全員参加型で、聴きに来ている人たちを飽きさせないよう、狂言の笑い方や犬や鶏の鳴き真似なども皆で挑戦しました。藤九郎さんの狂言の「笑い」は、華奢な身体のどこから出てくるのかと思うほど、お腹の底から湧き上がり、不思議と自然と聞いているこちらまでが笑ってしまうものでした。うーん、でも狂言て、なに？伝統芸能って、

【狂言とは】

南北朝時代に発生した中世的庶民喜劇で、能、歌舞伎、文楽（人形淨瑠璃）などとともに日本の代表的な古典芸能の一つ。特に能とは深い関係をもつところから「能狂言」とも呼ばれる。能が主に古典的題材をとり上げ幽玄美を第一とする歌舞劇であるのに対し、狂言は日常的なできごとを笑いを通して表現するせりふ劇という対照をみせている。（世界大百科辞典より抜粋）

今回、実行委員を務めさせて頂いた私が狂言と出会ったのはかれこれ20年近く前でした。最初は能楽の装束を見るのが好きで通っていましたが、合間に演じられる狂言に次第に興味を覚える様になつたのです。何しろ、登場人物が身近に感じられ、素直に笑えるではありませんか。それからブランクを経て、私は2年前の夏、和泉流毎年恒例の北鎌倉の円覚寺での「北鎌倉狂言の会」を拝見する機会を頂きました。

北鎌倉円覚寺は北条時宗由来の由緒あるお寺であり、NHK大河ドラマで藤九郎さんの弟さんでいらっしゃる和泉元彌さんが時宗役を演じられたことがご縁で円覚寺で公演を始められたとのこと。以来、私は三宅藤九郎さんの狂言に魅せられたの

言葉が難しくて理解できないんじやない？と思つてゐる学生は多いはず。今回取材をした私も、実際に能楽堂に観に行くまではそう思つていました。

ということで、ここで「狂言」について簡単に

です。

その日、あまりの面白さに誰よりも大きな声で大笑いをしてしまった私は、帰宅後、チケットを取りつてくださったお礼と、あまりにも大きな声で大笑いをしてしまったお詫びのメールを差し上げたところ、藤九郎さんが直ぐにお返事を下さいました。そして、その言葉に胸を打たれました。「観

客の方々の笑いが大きければ大きいほど佳いご奉納になります。ありがとうございます。」というものでした。三宅藤九郎さんのその言葉から改めて、笑いとは縁起の良いこと、吉祥の証であることを教えて頂いたのです。

度重なる発表や宿題、レポートに加え就活が始まり、周囲の学生達の顔が険しくなり、笑顔が少なくなったなど、残念に思う毎日でもありました。みんなに狂言を観て笑ってほしい、実際に舞台で狂言を観たいと思ってもらえるキッカケを作りたい、そして、日本の素晴らしい伝統芸能狂言と、それを代々受け継がれてきた狂言師という芸術家の存在をもっと多くの学生に知つてもらいたい。その様な思いから、「狂言師三宅藤九郎の世界ワークショップ」開催に至りました。

当日を迎えるまで、狂言ワークショップのお願

いを快くご承諾下さった藤九郎さんに幾度もメールで問い合わせる等など、不慣れ故にお手を煩わせることが多く迷惑をお掛け致しましたが、今

日に至ることができ、本当に感謝しております。

この場をお借りして御礼申し上げます。

学生諸君、「笑う門には福来る」。笑いの世界に是非、飛び込んでみてください。



12月4日狂言ワークショップの会場 3号館 304



約1時間のワークショップは全て英語



三宅藤九郎さんから所作の美しさも学ぶ